



かねこ すみこ
金子 スミ子 さん

1931年6月8日生まれ

1972年に水俣病に認定される。

夫を水俣病で亡くし、長男は幼くして水俣病を発症し、二男は生まれてまもなく死亡。三男は胎児性水俣病患者。水俣病で苦労した半生を語る。

2002年1月から水俣病資料館の「語り部」となる。

水俣市明神町在住。

私は、激症型水俣病で主人と次男を亡くしました。子供は3人授かりましたが、長男は幼いころに水俣病にかかり、次男は生まれて幾日もたたぬうちに亡くなりました。三男は生まれながらの胎児性水俣病です。

私は昭和26年に20歳という若さで結婚しました。嫁いだ先の家の前がすぐ海だったので、浜に行っては牡蠣やビナなどをとり食卓に並べていました。

昭和28年、2歳になった長男が病にかかり、原因不明ということで病院を何軒もまわりました。次男は生まれて29日で亡くなってしまいました。そして昭和29年主人が発病しました。主人も市内の病院に行きましたが原因がわからず、結局熊本大学病院に入院しました。こんな病気は初めて診たと大学病院でも言われました。はじめは2ヶ月で退院して帰りました。あとは月1回程度通院していました。昭和29年10月頃には出勤してもいいと医者から言われるまで回復しましたが、大事をとって様子を見ていました。ところが昭和30年になると主人の症状がひどくなりました。今度は一日一日悪くなるのが目にみえるようでした。ひっきりなしに痙攣に襲われ、病室の中で暴れ出しました。お医者さんには病院に任せて下さいといわれましたが、可愛そうで見えられず家に連れて帰りました。でも痙攣はひどくなるばかりで、昭和30年5月15日ついに主人は息をひきとりました。

主人が発病した頃、私は妊娠7ヶ月でした。お腹の子も病気ではないだろうかと不安になり、色々悩んで義母に相談しましたところ「せっかく授かった子供だから生みなさい」と励まされて生みました。後にこの子は胎児性水俣病と診断されました。

・・・これまで本当に心配と苦労の連続の日々で、周囲の方々の助けをかり一生懸命生きてきました。今後若い人達が生きるためには、日常生活を正しく、環境を守り、人間関係を大事にして安心できる生活をしてほしいと願っています。

【写真；手押し車を押す三男の胎児性患者】